

新横浜駅営業第二詰所の 受動喫煙問題解消へ！

東京地区分会が申し入れ、労働安全衛生委員会の案件にもなっていた新横浜駅営業第二詰所の受動喫煙・分煙問題が、28日からの分煙化の実施をもって解消されることになった。

新横浜駅営業第二の詰所は、当初より喫煙可能ということで別にある喫煙場所の使い勝手の悪さ(常に鎖錠されているため、喫煙のたびに鍵を貰い受けに行かなければならない)もあって、詰所内での喫煙が目立つようになっていた。

もちろん、喫煙する社員も換気扇の下での喫煙に努めたが肝心の換気扇の吸引力が弱く、クモの巣が張るほどの非力ぶりであった。また、専用の集煙器などの設置もなかった。そのため、食事中でも紫煙が部屋全体にたなびき非喫煙者や副流煙が自身の病気に悪影響を与える社員からも完全な分煙化を求める声が多くあがり、安全衛生委員会での案件にもなっていた。

今回、会社は詰所に隣接する業者用搬入口に灰皿を設置し、その扉のカードキーを喫煙者に配布する改善を行った。受動喫煙防止、分煙化の徹底は政府の推進する健康増進法の観点からも「早急に改善すべし！」との多くの社員の声で実現した分煙問題の解消は職場諸問題解決へ大きな前進となった。